

研究・調査報告書

報告書番号	担当
230	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol-drinking history and fatal injury in older adults. 高齢者における飲酒歴と致命的外傷	
執筆者	
Sorock GS, Chen LH, Gonzalgo SR, Baker SP.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol. 2006 Nov;40(3):193-9.	
キーワード	
外傷、アルコール、高齢者、致命的	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>たいていの臨床のガイドラインによればアルコール中毒、糖尿病、循環器疾患がなければ 1 日に 1 単位の飲酒を認めているが、アルコールは高齢者の致命的外傷に影響していると思われる。2つの全国的な調査を使ったケースコントロールスタディで飲酒歴と転倒、交通事故、自殺による致命傷との関連を検討した。</p> <p>方法：</p> <p>1993 年の National Mortality Follow-Back Survey から転倒、交通事故、自殺による死亡者 1735 人を選びケースとし、コントロールは 1992 年の National Longitudinal Alcohol Epidemiologic Survey からアメリカ国民を代表する 13381 人を選んでケースコントロールスタディを実施した。ケースもコントロールも年齢は 55 歳以上に限定した。ケースは死亡の前 1 年、コントロールは問診の前 1 年に 12 単位以上の飲酒があれば飲酒歴ありとした。</p> <p>結果：</p> <p>飲酒歴ありの飲酒歴なしに対する未調整オッズ比は転倒、交通事故、自殺でそれぞれ 1.7、1.7、1.6 であった。年齢、性、婚姻状態、教育、前年の労働で調整しても結果は変わらず、すべて null value は除外した。飲酒は男性より女性で自殺の危険を高めた。</p> <p>結論：</p> <p>高齢者の飲酒歴は転倒、交通事故、自殺のリスク上昇と関連し、この関連の強さはほぼ同等だった。</p>	